117期通信

北海道小樽潮陵高等学校2学年通信
令和4年2月28日(月)発行 第18号
潮陵2学年団

☆北京オリンピック

熱戦が繰り広げられた北京冬季オリンピックで、日本選手団は史上最多18個のメダルを獲得しました。メダル獲得のシーンだけではなく、アスリート一人一人のパフォーマンスやコメントに心が揺れスポーツの魅力を感じた人も多いのではないのでしょうか(個人的にはノルディック複合団体の28年ぶり銅メダル獲得の瞬間は見ていて興奮しました!)。その中でも、連日メディアで取り上げられていたのが女子カーリング。金メダル獲得が期待されたイギリスとの決勝戦では、日本代表(ロコ・ソラーレ)は3-10で敗れたものの日本カーリング史上初の銀メダルを獲得しました。選手達の天真爛漫な姿やポジティブなコミュニケーションは、今なお話題となっています。日本でこのような盛り上がりを見せている一方で、決勝戦の対戦相手であったイギリスのメディアは以下のように取り上げているようです。

スコットランド紙「The Scotsman」は、快勝したイギリス代表のパフォーマンスを振り返り、「4人全員が高いレベルでプレーし、日本チームを圧倒した」と絶賛し、特に地元出身のスキップであるイブ・ミュアヘッドについて、「リーダーシップと目的意識を持ったプレーで、ついに金メダルを手にした」と高く評価しています。ミュアヘッドは、平昌オリンピック(2018年)の3位決定戦でも司令塔として日本代表(ロコ・ソラーレ)と対戦しており、そのゲームではラストショット(カーリングは1試合で1チームが投じるショットは計80。つまりラストショットとは80投目)のミスでメダルを逃しています。ミュアヘッドは、平昌大会以前から慢性的な股関節炎に苦しみ、大会後には手術を経験しました。復帰後、チームメンバーを変えて挑んだ昨年5月の世界選手権では8位と低迷しています。北京の切符を掴んだのも、ラストチャンスオリンピック最終予選というギリギリのタイミングでした。ミュアヘッドにとって、この4年間は苦難の連続であり、苦しみぬいた末での栄光に同メディアは、「股関節の手術や過去の失望から立ち直り、この瞬間にたどり着いた」と賛辞を送っています。紆余曲折を経て、頂点に上り詰めたイギリス女子カーリング代表は、最終日にして今大会唯一の金メダルを母国にもたらしました。

スポーツに勝ち負けはつきものです。しかし、勝者にも敗者にもそれぞれドラマがあります。スポーツに限らず、万事において見る角度を変えれば見えるものが変わってきます。一方だけの側面を見ては物事の全体像を把握することはできません。東京夏季オリンピックの半年後に行われた北京冬季オリンピック。君たちはどんなことを感じましたか。

3月の予定

日	月	火	水	木	金	土
	28	1(12年生休業日)	2(午前授業)	3(生徒休業日)	4(4時間授業)	5
	考査3日目	卒業式	考査4日目	高校入試	追考査1日目	
6	7(生徒休業日)	8(7時間授業)	9(7時間授業)	10(7時間授業)	11(3~授業)	12
	高校入試採点日	追考査2日目 昼:個人写真撮影	追考査3日目 ⑦:進路別セミナー2回目		高校入試選抜会議	
13	14	15(7時間授業)	16(7時間授業)	17(6時間授業)	18(6時間授業)	19
	※休業日の可能性あり 高校入試追検査日		合格発表 ⑦:探究学習クラス発表	球技大会①	球技大会②	
20	21	22(4時間授業)	23(7時間授業)	24(3時間授業)	3/25~3/29	
	春分の日	成績会議		終業式・離任式	春季講習	